

令和7年度第2回北杜市子ども・子育て会議 会議録

開会日時 令和7年8月7日(木) 開会:10時 閉会:12時

開催場所 北杜市役所西会議室

出席者

民生委員・児童委員協議会会長 清水 真理子 委員長
帝京学園短期大学教授 吉田百加利 副委員長
民生委員・児童委員協議会(児童福祉部会)部会長 小澤志保子 委員
民生委員・児童委員協議会(児童福祉部会)副部会長 清水 もとみ委員
北杜市母子愛育会会長 波木井みゆき 委員
北杜市食生活推進協議会会長 茅野キヨ子 委員
北杜市放課後子ども教室コーディネーター代表 矢崎 元子 委員
北杜市PTA連絡協議会会長 溝口 奈緒美 委員
北杜市PTA連絡協議会副会長 中沢 佳弘 委員
北杜市PTA連絡協議会副会長 鳥屋尾 健 委員
北杜市保育園保護者連合会会長 田中 貴雄 委員
北杜市保育園保護者連合会副会長 関 育代 委員
青少年育成北杜市民会議 会長 田中 隆 委員
防災ママ@北杜 副代表 大久保 香 委員
北杜市保育協議会会長 日向 五十鈴 委員

(事務局)

子ども政策部長 小澤哲彦、子育て政策課長 土屋 直己、
子育て政策課子育て応援担当 篠原 伸宗、子育て政策課総務企画担当 小林 静香
子ども保育課長 三井 智昭、子ども保育課保育担当 藤原 昭訓
ネウボラ推進課長 坂口 美穂、ネウボラ推進課保健指導監 小泉 敏美
ネウボラ推進課ネウボラ推進担当 有賀 道子
教育委員会教育指導監 堀内 洋介

欠席者

北杜市商工会会長 小野 光一 委員
北杜市校長会 代表 宮崎 克美 委員
北杜市保育協議会副会長 前田 久美 委員

議題

- (1) 第1子保育料無償化について
- (2) 放課後児童クラブ適正化について
- (3) その他

公開・非公開の別 公開

傍聴人 0人

議事

- (1) 第1子保育料無償化について
—資料に基づき事務局から説明—

委員

無償化とは、具体的にいくらか。

事務局

今年度、約100名のこどもがおり、0～2歳児の第1子で2,800万円程の保育料をいただいている。その部分について令和8年度から無償となる。

委員

2,800万円を100名で割り、1名あたり28万円になるということが分かった。

委員

2,800万円は市のお金か。国・県から補助金が入るのか。

事務局

全て市の財源から賄うことになる。

委員

国は3歳以上となっているが、市で0～2歳児の第1子とした理由が、経済的などころを上げている。家庭で子育てをする人達に対する応援や県内他市の状況をどのように捉えているか。

事務局

県内では、13市中4市が第1子無償化を実施している。

家庭で子育てしている方もいるが、第1子無償化について6か月健診や12か月健診の際に意見を聞いたところ、ほとんどの方が育児休業もあるので1歳までは家庭で子育てする方が多く、中には3歳まで家庭で子育てしたいという方もいた。1歳を迎えたあとに入園させたいという方がかなり多かった。就労に関する支援、子育てに関する支援ができるように市長の公約でもある第1子無償化を検討している。

委員

家庭で子育てする方に対して、それに見合うような支援があるか。

事務局

全体な子育て・保育の事業として、ニューボラ推進課や子育て政策課であるかもしれないが、こども保育課保育担当の事業としては、予算計上していない。

委員

市全体として、そういう家庭に対しての手立てはあるか。

事務局

ファミリー・サポート・センターというものがあり、市内の方に登録していただき、こどもの送迎や預かりをしている。この制度では保育園に預けていない方について、一時的な預かりでご利用いただいている。

委員

費用は無料か。

事務局

平日利用は1,000円掛かるが、そのうち500円を市で補助しているので、利用者は1時間500円で利用可能。

委員

平等ではないと感じる。全てのこどもに恩恵を受けさせてあげたい。

委員

介護制度だと、要介護の認定を受けておらず家庭で介護している方に対して手厚い制度がある。保育園・幼稚園に行っていない家庭に何か補助している自治体があるか調べて、検討してほしい。

委員

無償化は反対ではないが、家庭の入園のタイミングにおいて枠の確保は大丈夫なのか。経済的な理由で早めに預けたい方もいる中で、自分のタイミングで入園させたい方へのサポートはどうなっているか。

事務局

10月から入園申込案内が始まり、来年の何月から入園希望という予約入園という対応を取る。入園の際には家庭状況や就労状況を確認したうえで、入園の順位を付けて、その中で入園の確保をしていく。また、入園申込出来なかった方については、月々で入園可能な保育園を案内している。途中入園は希望の園に入れられない場合もあるので、その点についても説明しながら入園案内をしている。

委員

以前、県内で調査をした際に、産休・育休を取得したあと3歳まで家庭で保育することはできるが、保育園の空きが心配なので、1歳2歳のうちから入園させたいという意見がかなりあった。様々な家庭の希望も配慮していただきたい。

委員

保育園が無償化になることで、入園するこどもが増えたら困ると思っている。愛着障害ということで、入学するまでに親の愛・家族愛・地域の愛にあまり触れていない子がいる。こういうことに繋がるのではと心配。本来は、家で愛情のもとに子育てするのが理想だと思っている。

事務局

愛着障害については、確かに耳にしている。問題行動があった際に、原因を探る中で愛着障害という言葉聞くことはあるが、確実にその子がそうであるかは把握できていない。保育園でも小学校

でも親の愛着を求める子がいるのは確か。親と子の関係をしっかり築いていかなければいけないとは感じる。

委員

保育園の先生の数や、先生方の忙しさを耳にする。保育園に通っても先生方から十分な愛を得られるような体制にしてほしい。保育園の先生も教員も、心に余裕を持って接することができるような保育園・学校になってほしい。無償化は賛成だが、無償化することで悪い方向に進んでしまわないか心配。

委員

無償化は賛成。国の配置基準も直していかないといけない。市にお金があるなら、手厚い配置基準にしていきたい。私事だが、働きたかったので産休だけで職場復帰した。私の持論は、親一人で育てることが悪いこととは思わない。私は、色んな大人の目に触れて、手に触れてもらうことがとても大事だと思ったので、育休は取らなかった。無償化になったから預けるということはあまり無いと思うし、女性が社会に参加していく中で選択できることが一番望ましい。親は接している時間が多いか少ないかではなく、こどもを大事にできるか、愛着を持ちすぎてもいけない。過保護になってしまう。社会で自立した人間に育てると考えたとき、どのような環境が一番望ましいのか考えていけたらと思う。愛着障害はずっと家にいる子も持つし、保育園・幼稚園に行くからダメとか、家庭がダメとかということではない。地域みんなで一人一人の子をどう育つのか見られる社会が一番いいと思っている。

委員

私達がこどもを育てた時代とは違い、核家族が多くなっている。良いことは残し、改善すべきことは改善する。

委員

誰でも通園制度が平行して第1子無償化が始まると思うが、保育士が受けられる人数に限りがあり、入園させたいけど入りづらいときがある。未満児の数に合う保育士の確保が懸念される。

事務局

誰でも通園制度は来年4月から法施行される。自治体が公設でやる場合には、これから国から基準等が示される。民間の事業者にも、制度上運用するかどうか示していく予定。誰でも通園制度については、空き状況の中で保育士が保育できる人数を預かるのが余裕活用型。新たに保育士を確保し、部屋を用意し、受け入れるのが一般型。この2つのやり方がある。民間事業者についてはこれから説明するので、どのような対応とするか分からないが、公立でやる場合は余裕活用型になる。現在、北杜市の保育園の中でも0歳児が保育できない園もある。空き状況を見ながら預かることになる。市内12園あるうち、1ヶ所でやるのか何ヶ所でやるのかまだ決まっていない。全部の園で行うのは不可能と考えている。誰でも通園制度を行う際には、少しでも保育士の余裕がある中で受けられるよう体制を考えていきたい。

委員

民営化も進めていると思うが、いつくらいまでにという見込みはあるか。

事務局

民営化指針では、1町に複数園あるところで進めたいとしている。具体的には、高根町・長坂町について民営化を進めたいとしているが、今後も保護者や地域の意見を聞き、理解を得た中で進めていきたいので、今のところ何年度に導入というスケジュールは決まっていない。

委員

民間にしても公立にしても、保育士の立場から言えば、新しい子が入園してきたときの慣らし保育の状況を見てもらえば分かるが、とても大変。誰でも通園制度を行うときは、余裕があるからだけでなく、新たに配置してもらわないと事故に繋がる。こどもの安全を考えて進めていただきたい。国の配置基準について、地方自治体から言わないといけないと思う。

委員

2,800万円の歳入が無くなると、どこかが削られてしまう心配がある。無償化は良いことだが、市の税金の使い方を考えてもらわないとならない。

委員

県内4市で無償化して、その後の状況は。

事務局

南アルプス市では入園希望者が増え、待機児童が出たと聞いている。北杜市では12園あるので、送迎も考慮した中で家庭の希望に沿うように入園させたい。また、保育士の現場の声も聞きながら入園の調整をしたい。

委員

0~2歳は副食費が市立も私立も無料、3~5歳の副食費で私立は補助となっているが、どのくらいの補助か。ここは無料にすべきではないか。

事務局

3~5歳の私立については月4,500円を補助している。どの保育園に対しても4,500円の補助をしている。

委員

無料と同じということか。

事務局

0~2歳は保育料の中に含まれているので無料という形で、通常、私立で3~5歳は副食費を徴収する制度になっている。私立の場合、本来保護者から徴収するが、市が園や保護者に4,500円を補助し、実際は無料となっている。

委員

保護者負担は無いということか。

事務局

はい。

委員

様々な意見が出された。出された意見を検討し、よりよい方向に進めていただきたい。

(2) 放課後児童クラブ適正化について

－資料に基づき事務局から説明－

委員

今までなぜ1,500円だったのか。

事務局

平成16年の合併当時からになる。当時、1,500円より高い地区もあったが、合併協議会の中で1,500円という金額に決め、約20年間そのまま来た。

委員

放課後児童クラブの開始時間は書いてあるが、終了は何時までか。

事務局

平日は午後1時から午後6時まで。就労の関係で迎えに来られない場合は、最長午後7時まで。長期休暇については、午前8時から午後6時までだが、最長午後7時まで。

委員

甲州市・山梨市は土日利用者があるが、北杜市は土日は開設してないということによいか。

事務局

北杜市は月曜から土曜まで。土曜に就労されている方については、土曜日の利用もある。

委員

長期休暇も同じか。

事務局

長期休暇も土曜の利用はできる。

委員

運営費について、国補助・県補助・市財源・保育料でずっと来ている。保育料が少ない分、市の財源で穴埋めをしていたが、とても無理ということで金額の見直しをするということか。

事務局

お金が無いからという考えではない。適正ではない金額を見直すということ。

委員

適正ではないというのは、どういう部分を言っているのか。

事務局

負担割合については、半分くらい。また、放課後児童クラブの環境整備や他市町村の保育料等を相対的に考え、見直したいということ。

委員

資料で他市の金額を示し、この辺が適正価格でないかという説明だと思うが、子育てでなるべく親の負担を減らし、北杜市全体で子育てと考えたとき、適正価格だからと金額を上げるのはどうかと思う。

事務局

保育料金だけ考えると値上げだが、放課後児童クラブの環境面において、小学校はGIGAスクール構想などで全学校にwi-fiが設置され、タブレットも配布されている。保育園もアプリを使い、出

欠席の連絡をしている。国も進めている ICT 化が保育園も小学校も対応している。特に小学校については、同じ子ども達が放課後児童クラブに来て、エアコン機能が低下していたり、机も足りなかったり、それぞれの放課後児童クラブにおいて課題がある。子ども達の環境を良くするのが市にとっても保護者にとっても重要だと考えている。しっかりとした整備をしたいということを含めた中での適正価格と御理解いただきたい。1,500円のまま環境改善等を進めることも考えられるが、整備が長期間になる可能性もある。

委員

小学校ではタブレットを持っていると思うが、それは自分の物か学校の物か。

事務局

市の備品である。

委員

それを放課後児童クラブでそのまま使用することは可能ではないか。

事務局

現在は wi-fi 環境が整っていないので、使用できない。

委員

タブレットの使用がゲームに繋がらないようにしてほしい。不登校のこどもの何割かは、ゲームのやりすぎて起きられず登校できない子がいる。こどもの脳を守ってほしい。

委員

放課後児童クラブが 1,500 円だった理由が分かった。合併当時、様々な料金を 8 町村の中で一番安い金額にしていた。放課後児童クラブのお手伝いをしたことがあり、内情が分かっている。保育料が 3,000 円になることについて、施設を充実させることを考えるとやむを得ないと思っている。今まで 1,500 円はおやつ代だったのかと保護者は誤解している。1,500 円でおやつが買えるはずがない。おやつを買いに行ったこともあるが、指導員はどんなおやつがよいかきめ細かい指導をしている。今までの御苦勞に感謝している。保育料については、よく 3,000 円に抑えられたなと思っている。値上げしても納得してもらえと思っている。

タブレットを使用できる環境にしたとして、それを指導できる人が付いてくれるのか。学校は先生方がいる。全員が持っているタブレットで何が起きているかという、ゲームもそうだが、盗撮等色々できるようになってしまっている。そういったことも踏まえて、指導・監督できる人がいることがとても大事だと思う。

私に関わっていた当時は、長期休暇中に色々なイベントをやっていた。講師を招いて野外で体験をしたり、半日でできることを指導員が企画していた。週に一度くらい企画をして、運営する方は大変。これを考えると 1,500 円ではできない。働く側の勤務体系を考えてほしい。7時半に受け入れとなったら、先生方は 7時半ではなく 7時15分にはスタンバイしていないとならない。指導員の手当てについて考えてほしい。タブレットも慎重にしてほしい。

委員

放課後児童クラブを利用していない世帯との公平性の確保とあるが、これはどのように確保されるのか。他市との比較で人口等色々あると思うが、できれば全国统一していただければ。

7時半受け入れについて、遠い人は7時前に出ないとならないとか、働く側にとってはどうなのかなと思う。

委員

Wi-fi 環境とエアコンというハードの設備は最優先だと考える。エアコンについては、命に係わるレベルになっている。この2つは最優先で進めていただきたい。環境課の事業では各保育園に回ってプログラムをしているので、そういったことができる事業者もあるので、やり方次第で先生方の負担を少なく体験を入れていくことが可能かと思う。

事務局

放課後児童クラブ保育料の見直しについて、御理解ありがとうございます。タブレット利用について、環境が整うので、誰かが指導するかは必要である。学校がどのように宿題を出して、タブレットがどんなものか、まだ把握できていない。Wi-fi 環境整備に際しては、支援員に指導しながら、我々職員も把握していきたい。利用の制限について、放課後児童クラブも、ある程度ルールを持って運営していきたい。

多種多様なこどもが増えてきていて、学校側も苦労している。学校については、こども1人に対し支援員を付けることが学校としては可能な状況と聞いているが、放課後児童クラブについては、3人体制で運営している。1人に配慮が必要なこどもがいれば、付きっきりになってしまう。本来なら、そこには人は配置しなければならない。人件費の増加となるが、そこも含めて手厚くしていきたい。

おやつについては、楽しみにしているこどももいるが、アレルギーへの対応の問題もある。様々なケースが増えてきており、おやつを食べないこどももいる。様々な案件が増えてきているのが実情。見直したい。長期休暇中のイベントなどの際には飲み物程度は用意したい。毎日おやつを用意することについては見直していきたい。

放課後児童クラブの公平性については、仕事をしていない家庭では家で保護者や祖父母が保育している中で、月1,500円で預けられるという差についての公平性です。

全ての施策において国が統一できるところは統一した方が望ましいとは考える。先般、人口減少対策について県が各市町村の指針的なものを発表し、市町村はそれに向けて取り組む流れだが、市町村間の競争になるのはあまり良いことではないと思っている。ただ、北杜市としては、市民に対して親御さん含め、子育て環境を整えていくことが最優先なので、できる限り支援していきたい。

7時半の受け入れについて、支援員には負担がかかるが、30分前に部屋の中に入ってもらうということを考えている。7時半に受け入れ、何かをしなさいということは考えていない。支援員の負担についても配慮していきたい。

地域で見守るということが昔のようにあれば、7時半から地域の人が見てくれるということも可能。親御さんと、地域の人とコミュニケーション取ることができれば、地域でこどもを育てるというイメージにつながるかと考える。

タブレットの利用できる環境について重要と考えている。長期休暇中の体験プログラムについて、どれくらい予算が必要かまだ把握していないが現状では難しい。新料金を実現すれば、そういったことも積極的に行っていきたい。先日、試験的に明野・小淵沢・武川の各児童クラブで wi-fi 環境を利用

して、「ロゴデザイナーの仕事」について学ぶオンライン講座を実施した。東京にいる講師と繋いで、子ども達に指導するということができる。子ども達が、全国と繋がっていることに感動していた。

委員

放課後児童クラブを利用している、していない家庭の公平性について、長坂・高根には児童館が無く、預け先が放課後児童クラブしかないので、とにかく登録して利用するしかない。こどもの居場所が無いから、放課後児童クラブしかないという状況が、この課題を生むのでは。放課後児童クラブに行かないと友達と遊べない・会えないから、放課後児童クラブに行くという家庭もある。保育料が上がることは問題無いと考えているが、こどもの居場所の確保がネックになっているので、地域で考える課題として、市民に下ろすという予定はあるか。

事務局

こどもの居場所は、市としても課題感を持っている。昨日オープンした3世代交流スペースは、祖父母世代とこども世代の居場所。児童館が明野・須玉・大泉・武川にしかなく、他の町からは不公平との声も聞こえる。一方で児童館と放課後児童クラブの役割はそれぞれ違う。今、児童館を放課後児童クラブのように使用してしまっているのが現状。将来的には、児童館の在り方を検討していかなければならない。放課後児童クラブは働いている保護者の支援、児童館は居場所、拠点のような場所。例えば、地域のこどもクラブ児童館を利用するなど須玉・武川については併設しているので、その役割が不明確になっている。

例えば地域単位で考えると、公民館も居場所になり得る。老人クラブだけが集まる公民館ではなく、こどもも集まれる公民館。地域の方との交流により、子ども達が集まれる居場所になる。児童館の在り方を見ながら検討していきたい。

委員

地域という話が出た中で、生涯学習課のコーディネーターや地域の育成会がそういった役割を担うことを期待されているのかなと思ったが、明野は育成会がなくなってしまい、そのような状況の中では難しいと感じた。放課後児童クラブの第2子半額、第3子以降無料について、この施策を実施した場合、運営費はどうなるか。

事務局

育成会が無くなるような状況だからこそ、居場所というところが問われている。行政が日常的に子ども達を集めて何かを実施するのは現実的に難しい。地域では祖父母世代から子ども達の声が聴こえないという意見があり、その声を受け3世代交流スペースを設置した。このような課題を地域とも共有できればと思う。

運営費について、資料にもあるがこれまでの保育料920万円が予測では増加する。これで試算すると、26%前後になる。これでもまだ国の規準には届かないが、不足なところはこれまで通り市が支援していく。

委員

地域と言われると、自分達は何ができるかと考える。気持ちとしては、地域の中で見守りや居場所作りのお手伝いをしたい。支援という立場で関わることはできると考えている。放課後児童クラブのお手伝いをすることはできるが、あくまでそこに指導者がいて、きちんと体制が整っている中での支援。そ

れが長期休暇の早朝に見守りをしてもらえるかとなったとき、安心感はあるかもしれないが、安全面でどうなのか。何かあったときの責任が心配。気持ちは十分あるし、公民館でも居場所について協力していきたいなどは思う。今、色々な話を聞く中で、行政が家庭の立場、働く職員の立場、こどもの立場を考えて、こういう提案をしていただいているのはありがたい。これを家庭がどう受け止めて、納得するか。説明の仕方であまり納得いくようにできればと思う。

委員

放課後児童クラブが立ち上がってすぐに第1子を預けた。1,500円はおやつ代と聞いていた。長年その値段で頑張ってきたというのがよく分かる。保育料の見直しについては、物価も上がっているので特に意見は無い。説明の中で環境整備が少し気になっていて、そこは市がやることで、利用者から負担を強いて、結果は同じかもしれないが、説明の段階では違うのではないかと感じる。先程の、第1子保育料無償化もそうだが、受益者負担という視点で見えていくと少しバラツキがあると感じている。一つ一つの施策は大事であり、納得も理解もできる。これを全体的に俯瞰して市民の視点から見ると、保育園から上がってきて学童に繋がっていく中で負担が増えるということは個人的には納得できる。受益者負担の公平性にも繋がっていくと思うので、どういう視点で行っているのか、市民全体に理解してもらえるように説明してもらいたい。

委員

施設整備を受益者負担の中に入れるのは言語道断。

委員

来年度の質向上賛成です。長期休暇に子どもより先に出勤することはできないと思う。男性も女性も社会で活躍することは大事なので、荏岐市の7時開所はすごいと思った。北杜市でもぜひ7時半開所してもらえれば、男性も女性も社会進出が楽になってくる。支援員については、なるべく予算を確保してあげてほしい。保育料が上がることについては賛成です。

委員

放課後こども教室というこどもの居場所作りを担当している。放課後こども教室と放課後児童クラブは内容的には連携してやっている。放課後こども教室は、国・県・市の負担で実施していて、親からの負担は無い。お金が掛からないように工夫している。親の負担を増やす前に、国や県に補助金を上げることを要求したい。

放課後こども教室では、地域の一般の方々に協力してもらっている。謝金を増やしたり、放課後児童クラブの場合は支援員やカウンセラーなど人的な環境を厚くしたい。

事務局

環境整備について説明の仕方は訂正したい。A4の資料について、保護者にも伝える、地域にも伝える、職員も把握するという意味合いで、北杜市の現状を図にした。切れ目のない子育て施策ということで大学・就職までを示している。放課後児童クラブの保育料適正化というところで、入学前は保育園の完全無償化があり、検討中ではあるが入学前の応援金も検討している。これまで出生時に第1子10万円、第3子は7歳到達時まで100万円というのがあったが、不公平感があることと、生まれたときは国の方で妊娠時に5万円、出産時に5万円という制度が新たに拡充された。国の支援と市の支援が重複するので、見直しを考えている。

委員

質問が、受益者負担というところで全体的に見たら違和感があるのではないかという内容。

事務局

そういう意味合いも含め、全体のこども施策パッケージとして提案している。これまでであれば、放課後児童クラブの料金だったり、保育料無償化だったり、個別に議論していたが、今回は対象年代も違い、施策全体を考えた子育て支援として御理解いただきたい。

委員

納得いくように個別に説明していただき、さらに市としてどうなのかと。例えば、就学前は手厚くしている、つまり小さなこどもがいる子育て家庭はぜひ来てもらえばなど、どこにお金を掛けているかストーリー性が必要。

委員

市の方向性、どこを手厚くしているか分かりにくいのではないか。

委員

そういうところを確認しながら、課として、部としての対策をお願いしたい。

事務局

そのように検討していく。

7時半の受け入れについて支援員の負担も考慮していき。支援者については増やしたいが、保育士同様人手不足の状況。地域の方の責任が伴うことを難しいところもあるので、今後検討していく。放課後わくわく教室は、放課後のこども達の居場所が不足している中で、多くのボランティアの方にご支援いただきながら、各小学校で実施している。県内でも1番の実績がある。学校とさらに連携していきたい。

放課後児童クラブ運営費について、国・県補助については強く希望していきたいが、国の考え方で保護者50%、残りを国・県・市の負担としている。

委員

放課後児童クラブの土曜日利用を何ヶ所かに集約してもらえると、送迎する保護者は大変かもしれないが、こどもの過ごし方としては他の友達と過ごせるほうが楽しいので検討していただきたい。

委員

新聞記事で、シングルマザーは1日に1・2回しか食事が食べさせてあげられないと読んで、今回の値上げはやむを得ないと思うが、なぜこの物価高騰の時期なのかという思いはある。保育料は所得によって違う。放課後児童クラブは第2子・第3子の免除制度があるが、本当に働かなくてはならないお金が無いシングルマザーの方達にとって1,500円が3,000円になることは、とても大変なこと。私達から見たら大した金額ではないかもしれないが、保育料が第1子無償化となる中で放課後児童クラブの保育料が3,000円になってしまう。そういう苦しむ人達に対して減免を考えてもらいたい。

事務局

土曜保育の集約について、支援員からも意見が出ている。こどもと支援員が1対1で1日過ごすのはこどもにとってもつまらないと。保護者の送迎の問題もあるので、要望も含め検討していきたい。

ひとり親については、現在、非課税世帯や生活保護世帯は減免制度がある。それは継続をしていく予定。非課税でなくなれば減免とはならないので、狭間で大変という方もいると思うが、御理解いただきたい。

委員

痛みを伴う人達のことを考えてほしい。施設整備は市の予算でやるべきことであって、保育料のところで言うべきではない。誰もが納得いく説明をしてほしい。

(3)その他

－資料に基づき事務局から説明－

質問・意見無し

以上